

## ある種のファイバー空間の変形と周期写像

(滋賀大教育, Max Planck Institute)

斎藤 政彦 (Masa-Hiko Saito)

1. 楕円曲面の局所変形は A. Kas の Thesis によつて調べられ, その中で 1 次の無限小変形 ( $1^{\text{st}}$  order Infinitesimal deformation, 以下  $1^{\text{st}}$  I.D.) が obstruction を持つ, 可能な倉西空間の次元が  $\dim H^1(X, \mathcal{O}_X)$  よりも真に小さい例が発見された。その後, 幾つかの例が発見された (cf. Namba [4], p11, for references) が, Burns-Wahl [1] が, 曲面の中の  $(-2)$ -curve  $E$  ( $\Leftrightarrow E \cong \mathbb{P}^1, N_E \cong \mathcal{O}_E(-2)$ ) の存在が, 曲面の  $1^{\text{st}}$  order I.D. に 1 次元分, 寄与する事を示し, node のみを持つ  $\mathbb{P}^3$  の超曲面の minimal resolution の  $1^{\text{st}}$  order Inf. Det に obstruction があるための必要十分条件を得た。さらに, A. Kas [3] は Burns-Wahl の結果を受けて, 曲面  $X$  の  $(-2)$ -curve  $E$  に対応する  $1^{\text{st}}$  order I.D.  $\theta_E \in H^1(X, \mathcal{O}_X)$  に対し local な計算ののち  $[\theta_E, \theta_E] \in H^2(X, \mathcal{O}_X)$  (primary obstruction) を計算した。後はこれにより, 楕円曲面を含む,

(-2) curve を含むファイバー空間の構造をもつ曲面を計算し、obstructed な曲面が多く存在する事を示した。

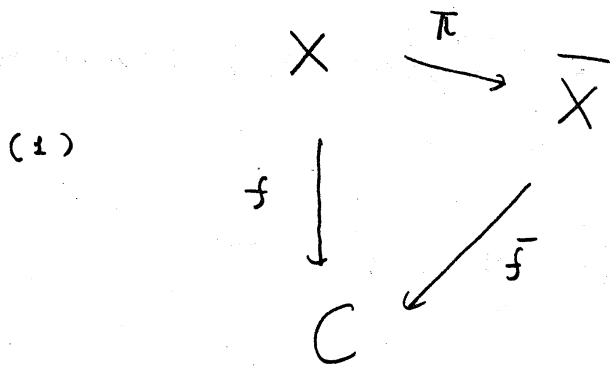
一方、楕円曲面  $X$  の 2<sup>nd</sup> cohomology  $H^2(X, \mathbb{C})$  の Hodge 構造を用いた Infinitesimal Torelli 定理は、[5] によって調べられたが、ほとんどの楕円曲面に対し、上の定理が成立するのに対し、幾つかの Kas の例の中に成立しない反例が見出された。この成立しない例は、曲線の Prym 多様体 (分岐をゆるした) の変形理論により説明される。これは、容易に高次元のファイバー空間の Infinitesimal Torelli の反例に拡張される。[6]

さてこの高次元の例は、ある意味で Kas の例の拡張に当たっていると思われる (上記の (-2)-curve  $E$  のかわりに、 $Y^{n-1} \subset X^n$   $Y \rightarrow S$   $\mathbb{P}^1$  bundle  $N_{Y/X} \cong \mathcal{O}_Y(-2)$ ,  $\mathcal{O}_Y(1)$  tautological bundle. なるもの存在を考え、これが  $H^1(X, \mathbb{H}_X)$  にどのように寄与するかはわかる。)

以下、この高次元の例の変形について調べた事をのべる。現在の所証明は完成してはいないが、この例は、1<sup>st</sup> order Inf deformation に obstruction を持つと思われる。さらに高次元の変形に際し、2次元の rational double point の simultaneous Resolution と違った現象が見られ、これは高次元の分類の際に singularity を許した  $\text{mini}^{\text{mal}}$  model を考えなければ



また,  $Z \rightarrow \mathbb{P}^{n-1}$  の ramification locus をやはり  $B \subset Z$  と書く.  $B \times \delta \subset Z \times \tilde{C}$  が involution  $\tau_1 \times \tau_2$  の fixed set であり,  $u: Z \times \tilde{C} \rightarrow \bar{X}$  に付る像  $u(B \times \delta)$  に沿って  $\bar{X}$  は特異点を持つ. その特異点は局所的には  $(A_1 \text{ 型}) \times (\text{smooth variety})$  の形としている事に注意する. このような特異点を  $A_1$  型とよぶ事にしよう.  $u(B \times \delta) = \bar{B} \times \bar{\delta}$  と書く.  $\bar{B} \times \bar{\delta}$  は  $\bar{X}$  の中で余次元 2 である. この特異点集合に若干回 Blow up すると, 非特異な多様体  $X$  を得る. 又 canonical 写像  $\bar{f}: \bar{X} \rightarrow C$  は自然に  $f: X \rightarrow C$  と拡張される.



$f$  のファイバーは,  $p \in C - \delta \Rightarrow f^{-1}(p) = Z$ ,  $p = p_i \in \delta \Rightarrow f^{-1}(p_i) = 2D_i + E_i$ ,  $D_i \cong \mathbb{P}^{n-1}$ ,  $E_i = \pi^{-1}(\bar{B} \times \bar{p}_i)$ ,  $\lambda_i: E_i \rightarrow B$  :  $\mathbb{P}^1$ -bundle  $E_i \cong \mathbb{P}(\mathcal{E})$ ,  $\mathcal{E} = \mathcal{O}_B \oplus \mathcal{O}_B(-d)$  である. ( $\mathcal{O}_B(1) = \iota^* \mathcal{O}_{\mathbb{P}^{n-1}}(1)$ ,  $\iota: B \hookrightarrow \mathbb{P}^{n-1}$ )

$$N_{E_i \subset X} \cong \mathcal{O}_{E_i}(-2) \cong \mathcal{O}_{\mathbb{P}(\mathcal{E})}(-2).$$

3. 2で述べた  $X$  および  $\bar{X}$  の変形について述べよう。  $\bar{X}$  は cyclic quotient singularity とも呼ばれ、<sup>(normal)</sup>  $V$ -variety (Schenck, 佐武) とある。  $\bar{X}$  の singular locus を  $\Sigma (= \bar{B} \times \bar{S})$  と書き  $j: \bar{X} - \Sigma \hookrightarrow \bar{X}$  を埋め込みとする時

$$\mathbb{H}_{\bar{X}} \cong j_* \mathbb{H}_{\bar{X} - \Sigma}$$

$$\Omega_{\bar{X}}^p \cong j_* \Omega_{\bar{X} - \Sigma}^p \quad (p \geq 1)$$

と定義する。(  $\Omega_{\bar{X}}^p$  は普通の Kähler differential の定義と違いますが、  $\mathbb{H}_{\bar{X}}$  は通常のもので一致する。 )

$\bar{X}$  の倉西空間の Zariski tangent space は

$$\mathbb{T}_{\bar{X}}^1 = \text{Ext}^1(\bar{X}; \Omega_{\bar{X}}^1, \mathcal{O}_{\bar{X}})$$

と与えられる。 さて  $T_{\bar{X}}^1 \cong \text{Ext}_{\mathcal{O}_{\bar{X}}}^1(\Omega_{\bar{X}}^1, \mathcal{O}_{\bar{X}})$  (local ext.)

とみると、次の exact sequence がある。

$$0 \rightarrow H^1(\bar{X}, \mathbb{H}_{\bar{X}}) \rightarrow \mathbb{T}_{\bar{X}}^1 \rightarrow H^0(\bar{X}, T_{\bar{X}}^1)$$

$$\rightarrow H^2(\bar{X}, \mathbb{H}_{\bar{X}}) \rightarrow$$

さて、§2 の状況のもとで、次がわかる。

命題 1. (1)  $(d-n)(g+l-2) > 0$ ,  $n \geq 3$  とすれば

$$H^1(\bar{X}, \mathbb{H}_{\bar{X}}) = H^1(Z, \mathbb{H}_2) \oplus H^1(C, \mathbb{H}_C(-g))$$

(2)  $n \geq 3 \Rightarrow H^2(\bar{X}, \mathbb{H}_{\bar{X}}) = H^1(Z, \mathbb{H}_2) \oplus H^1(C, \mathcal{O}_C)$

(3)  $T_{\bar{X}}^1 \cong \text{Ext}^1(\Omega_{\bar{X}}^1, \mathcal{O}_{\bar{X}}) \cong \bigoplus_{B_i} \mathcal{O}_{B_i}(2d)$ ,  $B_i = \bar{B} \times \bar{P}_i$

(証明)  $H^i(\bar{X}, \mathbb{H}_{\bar{X}}) = H^i(Z \times \tilde{C}, \mathbb{H}_{Z \times \tilde{C}})^{\langle 4, 1, 2 \rangle}$  (cf. e.g. Fujiki [2])

より (1), (2) は明らか。 (3) は Fujiki [2], p125 を modify

すなわち,  $T_X^1 \cong \bigoplus \left( \bigwedge^2 N_{B_i \subset \mathbb{C}P^{n-1}} \right)$  を得る.  $N_{B_i \subset \mathbb{C}P^{n-1}} \cong \mathcal{O}_{B_i} \otimes \mathcal{O}_{B_i}(2d)$  より (3) を得る.

さて,  $H^0(\bar{X}, T_X^1) = \bigoplus_{i=1}^{2l} H^0(B_i, \mathcal{O}_{B_i}(2d))$  の空間は  $\bar{X}$  の singularity を smoothing する deformation を表す. これは,

local には次の式で書ける.  $B = \{ F(x_0, \dots, x_n) = 0 \} \subset \mathbb{P}^{n-1} \subset \mathbb{C}$

$\mathbb{P}^{n-1} \times \Delta_\epsilon$  ( $\Delta_\epsilon = \{ t, |t| < \epsilon \}$ ) の divisor  $B$

が  $F(x_0, \dots, x_n) = 0$  で定まる. この double cover

$y^2 + t F(x_0, \dots, x_n) = 0$  と考えれば, singular set

は  $y = t = F(x_0, \dots, x_n) = 0$  である. 新たに  $G(x_0, \dots, x_n)$

を  $2d$  次斉次式とし, 新たに変数  $s$  を, 付け加え,  $\mathbb{P}^{n-1} \times \Delta_\epsilon \times \Delta_\epsilon$

上の double cover  $\mathcal{X} : y^2 + t F(x_0, \dots, x_n) + s G(x_0, \dots, x_n) = 0$

を考える.  $G \in \text{Generic}$  に取り  $s \neq 0$  を固定すると  $\mathcal{X}_s$

は smooth である. しかし total space  $\mathcal{X}$  は,  $y = t = s$

$= F = G = 0$  で singularity を持つ. さらに,  $n \geq 3$  ならば,

simultaneous resolution をきけない. (この  $G \in H^0(B, \mathcal{O}_B(2d))$  は一般に存在する.)

次に  $X$  の 1<sup>st</sup> order Infinitesimal deformation を考える.

この時  $\bar{X}$  の 1<sup>st</sup> order I.D. のうち,  $H^1(\bar{X}, \mathcal{H}_{\bar{X}})$

に対応する部分は,  $\bar{X}$  の local trivial な変形に対応し

$X$  の変形を導く. 又 命題 1, (1) より

$H^1(\bar{X}, \mathcal{O}_{\bar{X}}) = H^1(Z, \mathcal{O}_Z) \oplus H^1(C, \mathcal{O}_C(-\delta))$  であり前者は  
 $Z$  の変形  $((d-m)(g+l-2) > 0, m \geq 3$  なる double cover としの変形(あり))  
 後者は,  $C$  の変形と divisor  $\delta$  の変形を表現する。これは前者  
 が実際に実現されるから unobstructed な変形である。

さて  $X \supset \bigcup_{i=1}^{2l} E_i = E$  なる例外集合に注目し, 次の2つ  
 の exact sequence

$$(2) \quad \rightarrow H^0(X, \mathcal{O}_X) \rightarrow H^0(U, \mathcal{O}_X) \rightarrow H^1_E(\mathcal{O}_X) \rightarrow H^1(X, \mathcal{O}_X) \rightarrow H^1(U, \mathcal{O}_X) \rightarrow$$

$$(3) \quad 0 \rightarrow \mathcal{O}_X(-l_E E) \rightarrow \mathcal{O}_X \rightarrow N_E \rightarrow 0$$

$$\qquad \qquad \qquad \bigoplus_{i=1}^n N_{E_i}$$

命題 2. (1)  $H^1_E(\mathcal{O}_X) \hookrightarrow H^1(X, \mathcal{O}_X)$

(2)  $H^1_E(\mathcal{O}_X) \cong \bigoplus_{i=1}^{2l} H^0(B_i, \mathcal{O}_{B_i}(d))$

証明:  $n=2$  の時の Burns-Wahl の証明([1],  
 (1.3)) に従う。 $\pi: X \rightarrow \bar{X}$  に渡し,  $\pi_* \mathcal{O}_X = \mathcal{O}_{\bar{X}}$  なる事と  
 $\bar{X}$  の normality から,  $H^0(X, \mathcal{O}_X) \rightarrow H^0(U, \mathcal{O}_X)$  が従う。

(2)  $H^1_E(\mathcal{O}_X) = \varinjlim_m \text{Ext}^1(\mathcal{O}_{mE}, X)$  と計算する。(略)

(注)

$n = \dim X = 2$  の時,  $E_i$  は,  $-2$  curve  $2ld$  個の disjoint  
 な集合である。又  $B_i$  は点の集りであるから,  $H^1_E(\mathcal{O}_X) \cong \bigoplus \mathbb{C}[E_i]$

$\cong \mathbb{C}^{2ld}$ . (1) と合せると, 各  $(-2)$ -curve が  $H^1(X, \mathbb{O}_X)$  に独立に寄与する。A. Kas [3] より, この時,  $d \geq 2$ ,  $g+d-1 \geq 1$  ならば, この  $(-2)$  curve に対応する  $1^{\text{st}}$  order def. は obstructed.

(3) の exact sequence より次を得る。

### 命題 3.

$$(1) \quad 0 \rightarrow H^0(X, \mathbb{O}_X(-\log E)) \rightarrow H^1(\mathbb{O}_X) \rightarrow H^1(E, N_E) \rightarrow 0$$

$$(2) \quad H^1(E, N_E) \cong \bigoplus_{i=1}^{2g} H^0(B_i, \mathcal{O}_{B_i}(d))$$

証明) (2): 命題 2, (2) の証明の途中で,  $H_E^1(\mathbb{O}_X) \cong$

$H^1(E, N_E)$  を得る。よって (2) を得る。(1) は (3) の exact sequence と  $H^0(E, N_E) \cong H^0(E, \mathcal{O}_E(-2)) = 0$  及び,

$$H_E^1(\mathbb{O}_X) \hookrightarrow H^1(\mathbb{O}_X) \text{ から 逆に } H^1(\mathbb{O}_X) \rightarrow H^1(E, N_E)$$

が存在しなければならぬ。(  $H^1(E, N_E) \neq 0$  ならば  $E \subset X$  を変形して消して (1) の変形に対応する。)

4. 上の命題 3 における,  $H_E^1(\mathbb{O}_X) \cong H^1(E, N_E)$  を,

$X$  の変形の  $\checkmark$  local contribution と呼ぶ。 (Burns-Wahl [1])

さて, ここで注目して欲しいのは,  $\bar{X}$  の変形の際の local



contribution  $H^0(\bar{X}, T_X') \cong \oplus H^0(B_i, \mathcal{O}_{B_i}(2d))$  に対して  
 $H^1(\mathcal{O}_X) \cong \oplus H^0(B_i, \mathcal{O}_{B_i}(d))$  と  $\mathcal{O}_{B_i}(2d) \rightarrow \mathcal{O}_{B_i}(d)$  に置き代  
 へられる点である。これは次の事実に対応する。前と同様に  
 $y^2 + xF(x_0, \dots, x_n) = 0$  の変形を考えるが、今度は  $\phi(x_0, \dots, x_n)$   
 という d 次 齊次式を取り、 $\bar{X}: y^2 + xF + s^2\phi^2 = 0$  なる  
 double cover を考える。  $\bar{X} \rightarrow \mathbb{P}^{n-1} \times \Delta_t \times \Delta_s$  すると  
 $\bar{X}$  は  $y = x = F = s = 0$  と  $y = x = F = \phi = 0$  に  $\epsilon > 0$ ,  
 small resolution を許す singularity を持つ。結果的に  
 $\bar{X} \rightarrow \bar{X}$  なる resolution が存在し、 $\bar{X} \rightarrow \Delta_s$  は、  
 $g^1(0)$  の smooth な変形族になっている。この family  
 の様子が  $\phi \in H^0(B_i, \mathcal{O}_{B_i}(d))$  に対する smoothing の状況を表し  
 ている。

さて、このようにして  $H^1(\mathcal{O}_X)$  の local contribution は  
 $f: X \rightarrow C$  の singular fiber の近傍で実現される事が、わか  
 ったが、 $X$  上で global にこの local contribution にあたる  
 部分の変形が実現されるかは別の問題である。

予想  $g(C) \geq 1$  ならば、local contribution は  
 obstructed である。

これが言えれば、 $X$  は obstructed なる 1<sup>st</sup> order I.D  
 を持つ例となる。

5. 終りに。上のファイバ-空間  $f: X \rightarrow C$  の周期写像については [6] を見よ。

### References

- [1] D.M. Burns, J.M. Wahl; Local Contributions of Global Deformations of Surfaces; Inv. Math. 26, 67-88 (1974)
- [2] A. Fujiki; On Primitve Symplectic Compact Kähler  $V$ -manifolds of dim. Four; Classification of Alg. and Analy. Manifold; Progress in Math. Vol 39. 71-250, 1982
- [3] A. Kas; Ordinary double points and obstructed surfaces; Topology, Vol 16, 51-64, 1977
- [4] M. Namba; Families of Meromorphic Functions on Compact Riemann surfaces; Lec. Note in Math. 767,
- [5] M.-H. Saito; On the infinitesimal Torelli problem of elliptic surfaces; J. of Math, Kyoto Univ. 23-3, 441-460, 1983
- [6] \_\_\_\_\_; Differentials of Prym maps and counterexamples of the infinitesimal Torelli theorem. preprint.